

インバウンド復活を牽引する 韓国人の海外旅行トレンド

執筆者 KDDI 総合研究所 リサーチフェロー 林イラン

▼記事のポイント

<サマリー>

世界各国で COVID-19 に関する水際対策の緩和が進み、海外旅行者数が急増している。日本政府は、2022 年 10 月に外国人個人旅行の解禁、短期滞在のビザ免除など海外旅行者に国境を開放し、多くの外国人が日本を訪れている。とりわけ、韓国からの観光客が急増しており、日本のインバウンド市場の回復を牽引している。本稿は、日本のインバウンド政策において重要な市場である韓国に着目し、韓国人の海外旅行トレンドをコロナ禍の影響を踏まえながらまとめた。

調査から、韓国人の海外旅行トレンドとして、COVID-19 に関する安全と規制状況を最優先する、自由旅行型のパッケージツアーに対する関心の増加、コストパフォーマンスを重視する合理的な旅行、近距離旅行と即興旅行を好む、体と心を癒す旅、が挙げられた。これら 5 つのトレンドを踏まえ、今後のインバウンド促進に考慮すべき要素を提示した。

<主な登場人物>

韓国人観光客

<キーワード>

海外旅行トレンド

<地域>

韓国

Travel Trends of South Korean Tourists: Fueling Japan's Inbound Tourism Revival

Yirang Im

Research Fellow, KDDI Research, Inc.

Abstract

The number of international tourists has been rapidly increasing as many countries around the world ease their COVID-19 border measures. Since the Japanese government reopened the nation's borders to independent foreign travelers and reintroduced visa-free entry for short-term visits in October 2022, Japan has experienced a significant surge in the number of foreign visitors. Specifically, the number of tourists from South Korea is rapidly increasing, driving the recovery of Japan's inbound tourism market. This article focuses on South Korea, an important market for Japan's inbound tourism policy, and provides an overview of the travel trends of South Korean tourists abroad with consideration to the impact of the COVID-19 pandemic.

Based on the research, this article summarizes five characteristics of South Korean tourist travel trends, these include: prioritizing safety and regulatory compliance related to COVID-19; rising interest in self-guided package tours; seeking reasonable and cost-effective trips; preferring short-distance and impromptu travel; and, seeking trips to heal the body and mind. Using these trends, the article presents elements that should be considered in promoting future inbound tourism.

Key Players

South Korean travelers

Keywords

Travel trend

Regions

South Korea

1 はじめに

2022年10月11日に外国人個人旅行の解禁や短期滞在のビザ免除など、水際対策が大幅に緩和され、日本を訪れる観光客が急速に増えている。日本政府観光局(JNTO)によると、2022年の訪日外国人旅行者数は、前年対比1,458%も増加した383万1,900人であった¹。COVID-19以前の2019年比では10%程度となっているが、水際対策が緩和されてから、明らかな回復傾向にある。国別では、韓国が101万2,700人で最も多く、台湾が33万1100人、アメリカが32万3,500人、ベトナムが28万4,100人で続いた。とりわけ、韓国からの観光客が急増しており、2023年1月には56万5,200人が日本を訪れ、訪日外客数全体の約40%を占めるとともに、2019年同月比の72.5%まで回復した²。韓国人観光客が増加した背景には、水際規制の緩和、円安、日韓航空路線の復便などがあり、今後も急速に回復していくとみられる。

本稿は、日本のインバウンド政策において重要な市場である韓国に着目し、韓国人の海外旅行トレンドを紹介する。韓国人の海外旅行動向をコロナ禍の影響を踏まえながらまとめ、特徴や今後のトレンドを考察し、インバウンド促進に考慮すべき要素を整理する。

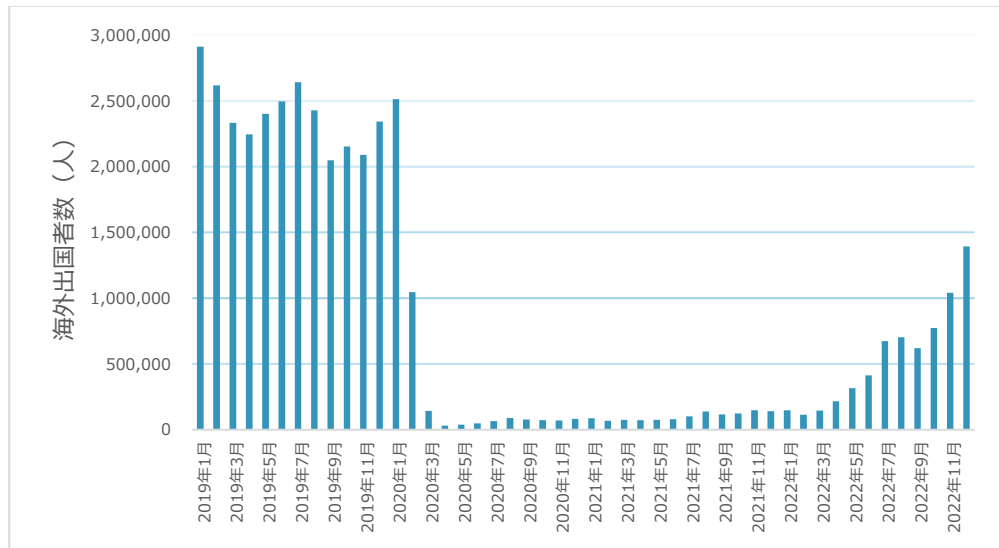
2 コロナ禍の韓国人の海外旅行動向

世界各国においてCOVID-19に関する水際対策の緩和が進んでおり、韓国人の海外旅行の需要も急上昇している。韓国観光公社の出入国統計によると、2022年に海外に出国した韓国人数は前年比436.1%も増加した655万4,031人であった。特に、2022年9月から韓国入国時に提出するコロナ陰性証明書の提出義務が廃止され、海外旅行をする韓国人が急増している。同年11月の出国者数は、前年比604.1%も増加した104万1,431人であり、COVID-19が本格化した2020年3月以降初めて100万人を突破した。

¹ 日本政府観光局、「訪日外客数（2022年12月および年間推計値）」、2023年1月18日、https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/20230118_monthly.pdf（2023年3月25日アクセス）

² 2023年1月の訪日外国人客数は、149万7300人。
https://www.jnto.go.jp/jpn/news/press_releases/20230215_monthly.pdf（2023年3月25日アクセス）

【図表 1】 韓国人の海外出国者数の推移（2019年～2022年）



出典：韓国観光公社¹を基に筆者作成

【図表 2】 の訪問目的地をみると、韓国人が最も多く訪れた海外旅行先の 1 位は日本であった。2022年に101万2,700人が日本を訪問したが、水際対策が緩和された後の11月から12月までにのみ77万人が日本を訪れた。その次に、米国が2位で919,799人、ベトナムが3位で769,167人の韓国人が訪れた。

【図表 2】 韓国人海外出国者の目的地：上位15か国（2019年と2022年）

2019年			2022年		
順位	国	訪問者数 (人)	順位	国	訪問者数 (人)
1位	日本	5,584,597	1位	日本	1,012,686
2位	中国	4,346,567	2位	アメリカ	919,799
3位	ベトナム	4,290,802	3位	ベトナム	769,167
4位	アメリカ	2,298,279	4位	タイ	538,766
5位	フィリピン	1,989,322	5位	フィリピン	428,014
6位	タイ	1,890,959	6位	シンガポール	217,523
7位	台湾	1,242,598	7位	グアム (アメリカ領)	193,402
8位	香港	1,042,540	8位	スペイン	180,610
9位	グアム (アメリカ領)	753,357	9位	ドイツ	123,185
10位	マカオ	743,026	10位	インドネシア	121,273
11位	マレーシア	673,065	11位	チュルキエ	99,832
12位	シンガポール	645,848	12位	カナダ	78,306
13位	スペイン	630,797	13位	マレーシア	77,930
14位	ロシア	431,082	14位	北マリアナ (サイパン)	74,613
15位	インドネシア	388,316	15位	オーストラリア	72,510

出典：韓国観光公社²を基に筆者作成

¹ 韓国観光公社の韓国観光データラボ

<https://datalab.visitkorea.or.kr/datalab/portal/nat/getOseaTourForm.do> (2023年3月25日アクセス)

² 韓国観光公社の韓国観光データラボのホームページ、「2023年1月基準 国民海外観光客の主要目的地別統計 (국민 해외관광객 주요 목적지별 통계(202301))」

<https://datalab.visitkorea.or.kr/site/portal/ex/bbs/View.do?cbIdx=1127&bcIdx=303105&pageIndex=1> (2023年3月25日アクセス)

コロナ禍以前の2019年に比べると、海外入国者に対する閉鎖政策を打ち出した中国などが上位の順位から下がり、タイ、シンガポール、インドネシアなど東南アジア諸国の順位が上がったことが分かる。また、2019年の訪問先4位であった米国が2位に上がったほか、ドイツ、チュルキエ、カナダなど長距離路線も新たに上位15位内に上がった。

海外旅行者数の増加傾向は2023年にも続いており、旧正月連休(1月20～24日出発)に旅行会社の海外パッケージツアーを利用し、海外旅行に出かけた韓国人も大きく増加した¹。韓国の大手旅行会社のハナツアーが企画した旧正月の海外パッケージツアーの予約者数は1万5,000人余りであり、前年比70倍に増加した。同じく、旅行大手のモドゥツアーの同期間出発のパッケージツアーの予約者数は1万3,000人であり、前年比90倍も増加した。

パンデミックが安定期に入りながら、これまで抑えられてきた海外旅行に対する需要がますます高まっていくとみられる。次章では、韓国人の海外旅行トレンドを5つに分けて紹介する。

3 韓国人の海外旅行トレンド

3-1 トrend1：海外旅行の最優先条件は、COVID-19に関する安全と規制状況

韓国文化観光研究院が2022年10月に実施した国内外旅行行動に関する調査²によると、海外旅行のための必要条件として「レビューとメディア報道で安全だと確認が可能な場合」(39.4%)、「入国後行動に対する制限が解除された場合」(38.6%)が最も高い割合を占めた³。COVID-19に関する安全と規制状況は韓国人が海外旅行を決定する前提条件となっているのである。また、自主隔離免除など入国政策変更により、2021年に比べ、海外旅行が便利になった場合の旅行意向に関する質問において「行きたいが海外状況をもう少し見守る」という意見が56%で最も高く、安全を最優先し、COVID-19をめぐる状況を慎重に考慮していることが分かる。

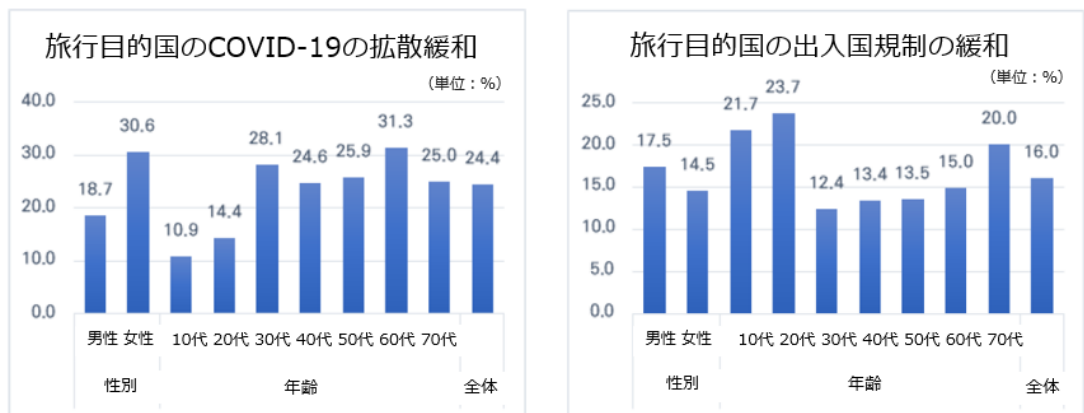
¹ 聯合ニュース、「旧正月の海外パッケージツアー予約 前年比30～90倍に＝韓国」、2023年1月19日 <https://jp.yna.co.kr/view/AJP20230119002000882> (2023年3月25日アクセス)

² 2022年10月14日から10月29日まで、15歳以上の国民2,860人を対象に国内外旅行行動に関するオンライン調査を実施。韓国文化観光研究院、「2022年コロナ19による国内外旅行行動に関する調査(第3四半期)(2022년 코로나19에 따른 국내외 여행 행태 조사 3분기 결과)」、2022年11月、<https://know.tour.go.kr/ptourknow/knowplus/kChannel/kChannelReport/kChannelReportDetail19Re.do?seq=103162> (2023年3月25日アクセス)

³ 複数回答による。その次に、「WHOがコロナ19の終息を宣言する場合」(23.9%)と「旅行先から歓迎されることがわかった場合」(21.7%)、「旅行先での医療の逼迫が解消された場合」(20.7%)などが続いた。

今後3年以内の海外旅行の意向に関する質問¹では、応答者の79.2%が「ある」と回答し、計画を立てる際に考慮する条件として「旅行目的国のCOVID-19の拡散緩和」(24.4%)、「旅行目的国の出入国規制の緩和」(16%) が2位と3位を占め、同じく安全と規制状況に関する要因が上位に挙げられた²。これらは性別・年齢別に違いを明らかにしている。【図表3】の左側のように30代や60代、そして女性の場合、旅行先におけるCOVID-19の緩和状況を優先的に考慮しており、感染に対する懸念や安全を重要に考えていることが分かる。一方、【図表3】の右側のように10代や20代の若い年齢層および男性は、該当国の出入国規制緩和に関する事項を優先的に考えており、規制が緩和されれば、旅行をする可能性が最も高いと考えられる。

【図表3】 COVID-19の拡散緩和と出入国規制の緩和を優先的に考慮する割合



出典：韓国文化観光研究院³を基に筆者追記

3-2 トренд2：安全な旅行に対する認識が高まり、自由旅行型のパッケージツアーが人気

COVID-19以降、安全な旅行に対する認識が高まり、選好する旅行商品の形にも変化が現れている。主要旅行業者によれば、自由旅行型のパッケージツアーの人気

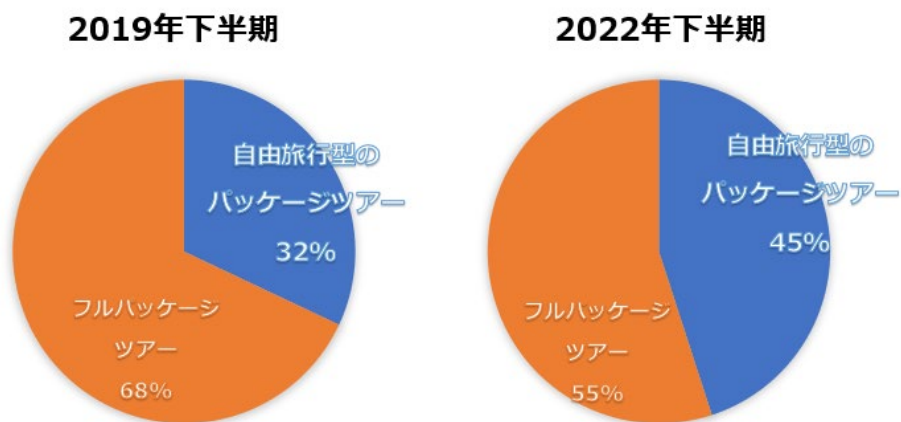
¹ 2022年9月26日から10月14日まで国民1,050人（満15歳以上79歳以下）を対象に実施した観光に関するオンラインアンケート調査。韓国文化観光研究院、「観光トレンド分析及び展望 2023-2025（관광 트렌드 분석 및 전망 2023-2025）」、2022年12月23日、<https://know.tour.go.kr/ptourknow/knowplus/kcti/detail19Re.do?seq=103182>（2023年3月25日アクセス）

² 最も高い割合を占めた応答は、「航空料金や為替レートなど旅行費用の緩和」であり、29.5%を占めた。

³ 韓国文化観光研究院、「観光トレンド分析及び展望 2023-2025（관광 트렌드 분석 및 전망 2023-2025）」、2022年12月23日、160ページ
<https://know.tour.go.kr/ptourknow/knowplus/kcti/detail19Re.do?seq=103182>（2023年3月25日アクセス）

がCOVID-19以前より増えつつある。【図表4】は、チケット予約サイトのインターパークにおける旅行商品の販売現状を示している。2022年下半期に販売された旅行商品のうち、自由旅行型のパッケージツアーの割合は45%であり、2019年同期の32%に比べ、13%も増加した¹。同社によれば、フルパッケージツアーとは、航空、宿泊、定番観光スポットのツアー、食事、交通を含む旅行計画があらかじめ完備された既製の商品のことを言う。一方で、自由旅行型のパッケージツアーとは、既製のパッケージに独自の旅行が可能で1~2日の自由時間を加えて構成されたものであり、友人、家族など少人数での出発が可能である。自由旅行型のパッケージツアーは、パッケージツアーが持つ便利さと自由旅行で楽しめる自由さを結合した形となり、withコロナ時代の旅行商品として人気を集めている。

【図表4】 インターパークにおける旅行商品の販売現状（2019年および2022年下半期）



出典：インターパークを基に筆者作成

パッケージツアーを利用する年齢層にも変化がみられる。従来のパッケージツアーの利用率は、中長年層の割合が高い傾向にあったが、COVID-19以降は、若者のパッケージツアーの利用率が増加する傾向にある。黄色い風船旅行社によると、同社の2022年パッケージツアーの利用者のうち、20代および30代が45%を占め、2019年比10%も増加したという²。パンデミック以降、安全な旅行に対する需要が増加しながら、個人旅行を好んでいた若年層の間でも交通や宿泊、ツアーに加え、安全管理が確保されている旅行会社のパッケージツアーを選択するケースが増えているとみられる。

¹ INTERPARK、「インターパーク、自由旅行型パッケージ人気…海外旅行トレンド先導 - 2023/01/04 (인터파크, 자유여행형 패키지 인기..."해외여행 트렌드 선도")」
<https://corp.interpark.com/newsroom/?q=YTToyOntzOjEyOiJrZXI3b3JkX3R5cGUiO3M6MzoiYWxsIjtzOjQ6InBhZ2UuO2k6Mjt9&bmode=view&idx=14304314&t=board>
 (2023年3月25日アクセス)

² THE DIGITALTIMES、「安全に敏感なMZ、パッケージ旅行を好む (‘안전’에 민감한 MZ, 패키지 여행 선호)」、2022年12月18日、
http://www.dt.co.kr/contents.html?article_no=2022121902100232102001&ref=naver
 (2023年3月25日アクセス)

現状、COVID-19に関連する規制が緩和されているものの、依然として国ごとに出入国に関するさまざまな制限措置が施行されている状況である¹。そのため、PCR検査予約代行サービスが含まれている商品や旅行中に陽性の診断を受けた場合、病院を紹介してくれる旅行会社など、COVID-19に関する諸手続きを手助けするパッケージツアーが関心を集めている²。今後、宿泊や航空券、COVID-19に関する支援事項などが含まれており、個別の自由旅行が可能な自由旅行型のパッケージツアーや小規模グループによるカスタムツアーに関する需要はさらに増加していくとみられる。

3-3 トренд3：コストパフォーマンスを重視する合理的な旅行

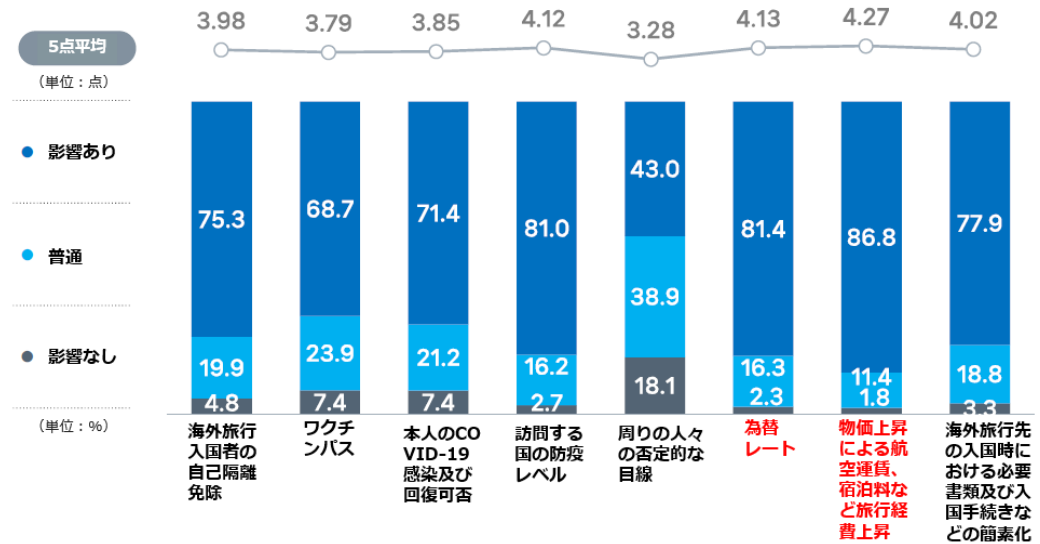
韓国文化観光研究院が実施した調査³によれば、【図表5】で示すように海外旅行の決定に影響を与える要因として「物価上昇による航空運賃、宿泊料など旅行経費上昇」が86.8%で最も高い割合を占めた。その次に、「為替レート」が81.4%を占めており、旅行経費に関連する要素が重要な影響を及ぼしていることが分かる。

¹ 2023年3月10日現在、日本入国時にワクチン3回接種証明書または72時間以内のPCR陰性確認書の提出が必要である。また、事前申告手続きであるVisit Japan Webサービスを利用すれば、入国審査時間を節約することができる。Visit Japan Webサービスは、入国に必要な「検疫」、「入国審査」、「税関申告」をウェブで行うことができるサービスである。次のURLを参照。 <https://vjw-lp.digital.go.jp/ja/>

² 韓国観光公社、「エンデミック時代、私たちの海外旅行の需要は？-データで見る海外旅行形態と展望-（엔데믹시대 우리의 해외여행 수요는? -데이터로 본 해외여행 형태와 전망-）」、2022年7月5日、https://datalab.visitkorea.or.kr/site/portal/ex/bbs/View.do;ksessionid=-6Ih_NMmZT9V1ENLjMATYVjVBBXTidGhnQpgGbSM.wiws02?cbIdx=1129&bcIdx=301173&pageIndex=1（2023年3月25日アクセス）

³ 韓国文化観光研究院、「2022年コロナ19による国内外旅行行動に関する調査（第4半期）（2022년 코로나19에 따른 국내외 여행 행태 조사 3분기 결과）」、2022年11月、<https://know.tour.go.kr/ptourknow/knowplus/kChannel/kChannelReport/kChannelReportDetail19Re.do?seq=103162>（2023年3月25日アクセス）

【図表 5】 海外旅行の決定に影響を与える要因



出典：韓国文化観光研究院¹を基に筆者追記

ホテルズドットコムが発表した「2023年の旅行トレンドに関する調査」では、物価が上昇するにつれ、2023年には旅行費用を節約できるコストパフォーマンスが良い旅が求められると見込んでいる²。ホテルズドットコムのデータによると、韓国人旅行者の26%が「これまでより経済的な面を重視する」とし、27%は「2023年には1~3つ星ホテルに滞在する予定」であると回答した。ホテルズドットコムコリアのウェブサイトによると、2022年の3つ星ホテルの予約率は前年比53%も増加しており、このような傾向は2023年にも続くとみられる。

ブッキングドットコムの調査³でも韓国人10人のうち6人はコストパフォーマンスを重視しながら予算を合理的に消費したいと考えていた。そのために「特価商品を購入するためにさらに早い時点で予約を進める」(61%)、「割引やロイヤルティプロ

¹ 韓国文化観光研究院、「2022年コロナ19による国内外旅行行動に関する調査（第3四半期）（2022년 코로나19에 따른 국내외 여행 행태 조사 3분기 결과）」、2022年11月、62ページ

<https://know.tour.go.kr/ptourknow/knowplus/kChannel/kChannelReport/kChannelReportDetail19Re.do?seq=103162>（2023年3月25日アクセス）

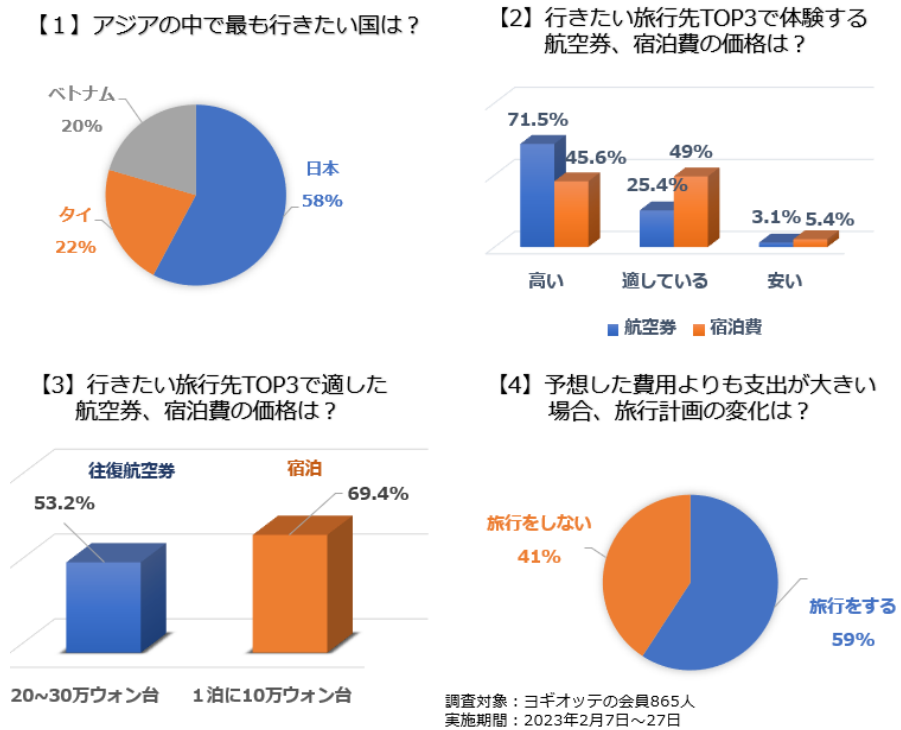
² Travel DAILY、「エキスペディア分析 2023年の旅行トレンド（익스피디아 분석 2023년 여행 트렌드）」、2022年11月18日、
<http://m.traveldaily.co.kr/news/articleView.html?idxno=41158>（2023年3月25日アクセス）

³ Booking.com、「ブッキングドットコム、2023年の7大旅行トレンド展望発表（부킹닷컴, 2023년 7대 여행 트렌드 전망 발표）」、2022年12月7日、
<https://news.booking.com/ko-ko/%EB%B6%80%ED%82%B9%EB%8B%B7%EC%BB%B4-%252C-2023%EB%85%84-7%EB%8C%80-%EC%97%AC%ED%96%89-%ED%8A%B8%EB%A0%8C%EB%93%9C-%EC%A0%84%EB%A7%9D-%EB%B0%9C%ED%91%9C-KR/>（2023年3月25日アクセス）

グラムの恩恵を受ける」(59%) などさまざまな方法で合理的な旅行を計画することを示した。

宿泊プラットフォームヨギオッテは、2023年2月にアジア旅行の体感経費に関する調査¹を行った。アジアの中で最も行きたい国は、日本 (58%)、タイ (22%)、ベトナム (20%) がTOP3を占めた【図表6-1】。行きたい旅行先TOP3で体験する航空券、宿泊費の価格については、71.5%の回答者が「航空券の費用が高い」と答え、45.6%は「宿泊費が高い」と回答した【図表6-2】。希望する往復航空券の価格については、「20~30万ウォン台」(53.2%) を、宿泊料金の適正価格は「1泊に10万ウォン台」(69.4%) に回答した割合が最も多かった【図表6-3】。ただ、10人のうち6人は、体感する旅行経費が高くても旅行をすると答え【図表6-4】、海外旅行に対するニーズは依然として高いと思われる。

【図表 6】 アジア旅行の体感経費に関する調査



出典：ヨギオッテを基に筆者作成

旅行業界では最安値の値段を掲げたプロモーションが始まっている。ヨギオッテは、2022年11月、「海外旅行最安値チャレンジ」を実施した。同社より購入した海外旅行商品が最低価格ではない場合、その差額を返金するイベントである。海外ホテ

¹ 会員865人を対象。アジア旅行の体感経費に対する調査。The Joong-Ang News Korea、「アジア旅行爆発… 価格より「旅行欲求」(아시아 여행 폭발… 가격보다‘여행 욕구’)」、2023年2月15日、<https://www.ejanews.co.kr/news/articleView.html?idxno=311438> (2023年3月25日アクセス)

ルの場合、その差額分を、海外特価商品の場合は、差額の2倍をヨギotteポイントで支給する¹。インターパークも2023年3月に「最低価格補償制」を導入し、同社より購入した海外ホテルの価格が他社より高い場合、差額をポイントで支給するイベントを行っている²。同じく、航空券の最低価格補償制も実施しており、その他クーポンや提携カード割引など多様なプロモーションを進めている。

ヨギotteが実施した海外旅行に関するアンケート調査³で、回答者の81.1%は「最低価格補償制が商品購入に影響を及ぼす」と回答し、85.5%は「最低価格補償制の有無により既存に利用していた旅行プラットフォームを変更する意思がある」と答えた。最低価格補償制に対する消費者の認識は前向きであり、消費者が実感できるコストパフォーマンスの良い旅行商品を企画することは、非常に効果的なプロモーションになると考えられる。

3-4 **トレンド4：近距離旅行と即興旅行を好む**

レジャープラットフォーム企業ヤノルザが分析した旅行ビッグデータ⁴によれば、2022年に航空券発売が最も多かった人気の観光地トップ10は、日本(20.7%)、ベトナム(16.3%)、タイ(11.9%)、フィリピン(8.5%)など、比較的飛行時間が短い近距離国が占めた。特に、日本はランクに上がった国の中で出入国規制を緩和した時期が一番遅かったが、下半期に需要が集まり、1位を占めるようになった。

近距離の旅行地に対する需要は2023年にも続くとみられる。オンラインマーケットプレイスGマーケットが2023年1月2日から17日まで販売した海外航空券の予約デ

¹ KOREA WAVE、「海外旅行は私たちが一番安いです」…旅行業界は「最安値」競争、2022年11月11日、
<https://koreawave.jp/%E3%80%8C%E6%B5%B7%E5%A4%96%E6%97%85%E8%A1%8C%E3%81%AF%E7%A7%81%E3%81%9F%E3%81%A1%E3%81%8C%E4%B8%80%E7%95%AA%E5%AE%89%E3%81%84%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%8D%E6%97%85%E8%A1%8C%E6%A5%AD%E7%95%8C/>（2023年3月27日アクセス）

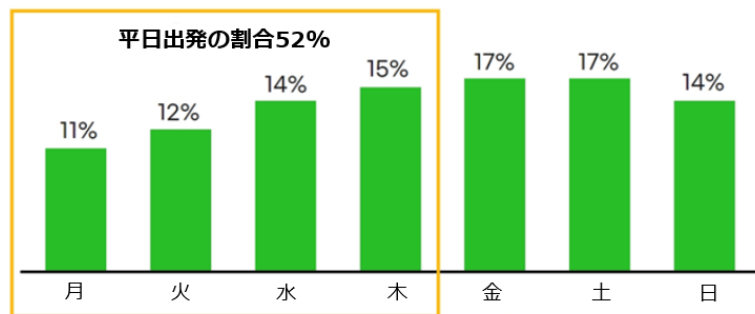
² INTERPARKのウェブサイト
<https://events.interpark.com/exhibition?exhibitionCode=230117001>（2023年3月27日アクセス）

³ Korea Information Communication Newspaper、「海外旅行の空の道が開かれる一本当の最安値を求める（해외여행 하늘길 활짝…진짜 ‘최저가’ 원해）」、2022年11月24日、
<https://www.koit.co.kr/news/articleView.html?idxno=106128>（2023年3月27日アクセス）

⁴ Yanoljaのウェブサイト、「2022韓国人の旅行行動（2022 한국인의 여행 행태）」、2023年1月3日、
<https://yanolja.in/newsroom/pressrelease/view/?idx=1248&p=1&sort=Corp>（2023年3月27日アクセス）

ータを分析した結果¹、日本や東南アジア地域が人気旅行先のトップ10を占めた。日本の都市である大阪、福岡、東京順で1位から3位を占め、2019年の同期に比べ、大阪は119%、福岡は114%、東京は53%まで予約が急増した。近距離の旅行地を好む傾向が高まりながら、連休や週末にとらわれず、平日にも旅行をする人々が増えている。【図表7】のように海外旅行の出発日を集計した結果、月曜日から木曜日までの平日に出発した割合が52%を占めた。一方、金曜日から日曜日までの週末に出発した割合は平均16%であり、週末に偏らず時間がある時に海外旅行をする傾向がみられた。

【図表7】 海外旅行の出発日の割合



出典：Gマーケット²を基に筆者追記

近場の海外旅行先が人気を集めながら、旅行を準備する期間も短く、即興で気軽に出かける旅行者が増えている。ヨギオッテは、2023年の海外旅行トレンドとして即興旅行を挙げた。当社の2023年1月の海外宿泊先の予約データを分析した結果³、海外旅行者10人のうち、2.4人(24.0%)は、旅行出発の1週間以内に宿泊先を予約していることが分かった。また、予約当日にチェックインした割合も4.3%に達し、旅行の準備期間が短くなっていた。性別で見ると、女性(20.6%)より男性(28.3%)の方が即興旅行を好む傾向にあり、宿泊費は、準備期間が短い旅行のほうが費用をかけた旅行となっていた。即興旅行者の平均宿泊費は23万ウォンであり、予約からチェックインまでの期間が21~28日残った旅行者より13万ウォン安かった。

¹ KOREA WAVE、「韓国の旅行、平日出発が5割超…週末に偏らず」、2023年2月1日
<https://news.yahoo.co.jp/articles/19a6303e81a979f07b3672de167c58d845e81adc>
 (2023年3月27日アクセス)

² The Korea Travel Times、「上半期の海外旅行は近いところに隙間時間に行く(상반기 해외여행은 가까운 곳으로 틈틈이 떠난다)」
 2023年1月31日、<https://www.traveltimes.co.kr/news/articleView.html?idxno=403961>
 (2023年3月27日アクセス)

³ Insight Korea、「10人のうち、2.4人は即興旅行、宿泊予約後の7日以内にチェックイン(10명 중 2.4명 즉흥 여행, 숙소 예약 후 7일내 체크인)」
 2023年2月17日、<http://www.insightkorea.co.kr/news/articleView.html?idxno=105574> (2023年3月27日アクセス)

3-5 トренд5：体と心を癒す旅

パンデミックの間に孤立感や気分の落ち込みを訴える人々が増加し、癒しと精神健康を望むウェルネスツーリズム（Wellness Tourism）に対するニーズが増大している。ウェルネスツーリズムは、健康増進や癒しのための旅行形態を言う¹。

ホテルズドットコムが2022年に実施した調査²によれば、韓国人旅行者の半分以上（59%）が「以前に比べて、ウェルネス（健康）を意識した旅行に興味が増した」と答えた。その理由で、「以前よりも心身の健康を重視するようになったから（53%）」、「心身の健康を高めるための新しい方法を探しているから（47%）」、そして「コロナ禍で、ウェルネストラベルがあまりできなかったから（38%）」が挙げられた。また、同社が行った2022年の年末旅行アンケート調査では、韓国人が旅行をする最大のモチベーションとして「休憩をとり、リフレッシュする時間を持ちたいから（64%）」、「仕事から抜け出して休憩をとり、自分へのご褒美をあげたいから（58%）」、そして「家族や友達と有意義な時間を過ごしたいから（53%）」が挙げられ、忙しい日常から離れ、旅行を通じて体と心の癒しを望むニーズが高くなっていることが窺える。

韓国文化観光研究院が実施した調査³で、韓国人が2022年第3四半期に経験した新しい旅行タイプの中で最も高い割合を占めたのは「ホカンス」⁴（45.5%）であり、次に「キャンプ」（26.5%）と「ウェルネスツーリズム」（24.2%）が続いた【図表8参照】。また、COVID-19以前に海外旅行をした回数が多いほど、ホカンス、ウェルネスツーリズム、ブレザー⁵を経験した割合も高かった。

¹ 荒川（2017）は、ウェルネスツーリズムを「旅先でのスパ、ヨガ、瞑想、フィットネス、ヘルシー食、レクリエーション、交流などを通して、心と体の健康に気づく旅、地域の資源に触れ、新しい発見と自己開発ができる旅、原点回帰し、リフレッシュし、明日への活力を得る旅」として定義している。荒川雅志（2017）「ウェルネスツーリズム - サードプレイスへの旅-」フレグランスジャーナル社

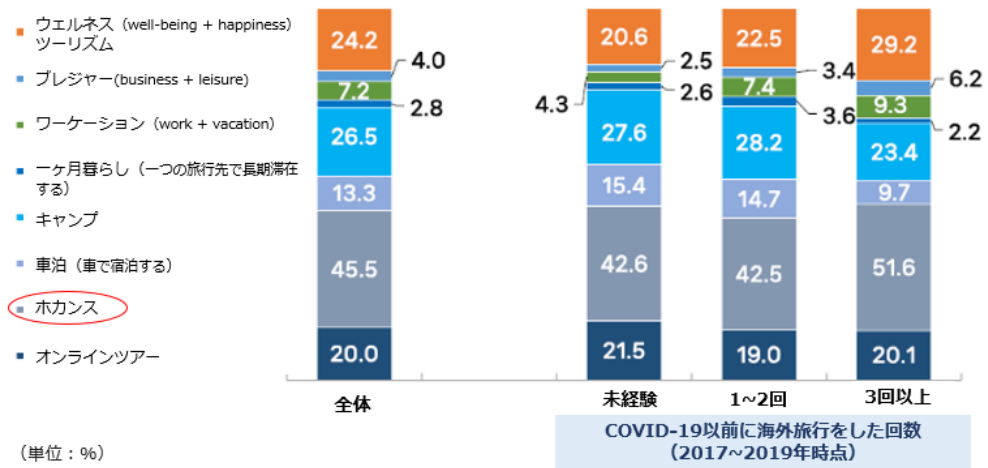
² NewsPim、「2023年の旅行トレンドは「No-Normal」（2023년 여행 트렌드는 'No-Normal'...가성비와 '웰니스'가 새 물결 주도）」、2022年11月18日、<https://www.newspim.com/news/view/20221118000411>（2023年3月27日アクセス）

³ 韓国文化観光研究院、「2022年コロナ19による国内外旅行行動に関する調査（第3四半期）（2022년 코로나19에 따른 국내외 여행 행태 조사 3분기 결과）」、2022年11月、<https://know.tour.go.kr/ptourknow/knowplus/kChannel/kChannelReport/kChannelReportDetail19Re.do?seq=103162>（2023年3月25日アクセス）

⁴ 「ホテル」と「バカンス」を組み合わせた造語。近場のホテルに泊まりながら休憩をとり、バカンスの気分を味わうことを言う。

⁵ 「ビジネス」と「レジャー」を組み合わせた造語。出張などで訪問したところで旅行や余暇を楽しむこと言う。

【図表 8】 2022年第3四半期に経験した新しい旅行タイプ



出典：韓国文化観光研究院¹を基に筆者追記

多くの韓国人が日本を訪れる理由として、近距離の旅行地、円安などが挙げられるが、日本は温泉や森、海、島など休息や癒しのための観光資源も豊富なため、ウェルネス旅行者のための観光商品の開発を通じて新たな観光需要を生み出すことができると考えられる。

4 まとめ

世界観光機関 (UNWTO) によれば、2023年の国際観光客到着数はパンデミック前の水準の80%から95%までに回復する見込みである²。各国でCOVID-19に関する水際対策の緩和が進み、海外旅行者数が急増している。日本政府は、2022年10月に外国人個人旅行の解禁、短期滞在のビザ免除など海外旅行者に国境を開放し、多くの外国人が日本を訪れている。とりわけ、韓国からの観光客が急増しており、日本のインバウンド市場の回復を率いている。本稿は、各種調査結果などをもとに韓国人の海外旅行トレンドを5つに分けて紹介した。これに基づいて、今後のインバウンド促進に向けて、次のような要素を考慮することができる。

第一に、COVID-19に関連する感染拡散の状況や入国規制緩和などの諸状況は、海外旅行決定の前提条件となっていたため、COVID-19をめぐる状況を常に確認し

¹ 韓国文化観光研究院、「2022年コロナ19による国内外旅行行動に関する調査 (第3四半期) (2022년 코로나19에 따른 국내외 여행 행태 조사 3분기 결과)」、2022年11月、71ページ
<https://know.tour.go.kr/ptourknow/knowplus/kChannel/kChannelReport/kChannelReportDetail19Re.do?seq=103162> (2023年3月25日アクセス)

² UNWTO “TOURISM SET TO RETURN TO PRE-PANDEMIC LEVELS IN SOME REGIONS IN 2023” (2023.1.17), <https://www.unwto.org/news/tourism-set-to-return-to-pre-pandemic-levels-in-some-regions-in-2023> (2023年3月27日アクセス)

ながら、不安要素などに即座に対応できる体制を整備する必要がある。何よりも旅行中に感染した場合の対処方法や出入国規制に関連する事項など、現地状況に関する正確な情報を分かりやすく提供し、旅行者が安心して旅行できる環境を整える必要がある。

第二に、安全な旅行に対する認識が高まり、パッケージツアーが人気を集めている。特に、別途の自由旅行時間が追加されている商品や小規模のカスタムツアーなど、自由旅行型のパッケージツアーが人気を集めている。コロナ以前は、パッケージツアーに対する選好が減少する傾向にあったが、コロナ禍は、国ごとに異なる水際対策などに便利に対応するために、パッケージツアーへの関心が高まっていると思われる。これを機に、今後も多様な旅行需要に対応する多様な旅行商品の開発を通じて、パッケージツアーの需要回復を図ることができるとと思われる。

第三に、韓国人観光客は、旅行予算を節約できる合理的な旅行を好むため、最低価格補償制など、消費者が実感できるコストパフォーマンスの良い旅行商品を企画することは、効果的なプロモーションになると考えられる。コロナ禍で航空券や宿泊費など旅行に関わる経費が値上がりした状況であるが、これまで抑えられてきた海外旅行への意欲が爆発し、喜んで旅行に出かける旅行者が多くなっているため、コストパフォーマンスの良い旅行商品の提供を通じてより多くの韓国人を誘客することができるとと思われる。

第四に、気軽に即興で出かける近距離旅行への人気が続くとみられる。韓国と地理的に隣接している日本は、韓国人にとって人気の観光地である。日韓を結ぶ航空路線の増便や現地での交通手段案内など移動の利便性が加わると、平日にも時間がある時、近距離旅行先である日本を訪れる旅行者がさらに増加すると思われる。

第五に、激しい競争社会の中で、休息と癒しの価値は、韓国人にとってますます重要になっている。韓国では、旅行を通じて、日常から離れ、体と心をリフレッシュするウェルネスツーリズムが人気を集めている。日本の豊かな温泉や森林観光資源を活用することで、ウェルネスツーリズムの観光客を惹きつけることができると思われる。また、海外旅行の回数が多いほど、余裕を持って、ゆったりと休息するホカンスやウェルネスツーリズムを好む傾向があったため、旅行回数や経験に応じた多様な商品を提供することが有効であると考えられる。

最後に、国際観光は、伝染病や戦争、経済低迷などの外部要因に大きく影響を受ける。旅行トレンドを理解し、変化する国際情勢に迅速に対応することで、急増するインバウンド需要に備えることができると思われる。

【執筆者プロフィール】

氏名： 林（イム）・イラン Yirang Im, PhD

所属： KDDI総合研究所 リサーチフェロー

経歴： 2017年3月慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程を修了。博士（政策・メディア）。2016年4月から2019年2月まで同研究科の特任助教として研究及び教育活動に従事。2018年8月から2023年3月まで慶應義塾大学SFC研究所の上席所員。2019年3月から2021年3月までKDDI総合研究所のアナリストとしてスマートシティや官民連携に関する調査研究を担当。2021年8月よりアトランタ在住。

Yirang Im is a Research Fellow at KDDI Research, Inc. She completed her PhD in Media and Governance at Keio University in 2017. She was a Project Research Associate at Keio University from April 2016 to February 2019 and an Analyst at KDDI Research, Inc. from March 2019 to March 2021. She was also a Senior Researcher at Keio Research Institute at SFC from August 2018 to March 2023. Her current research interests include local government policy-making process, smart city development, and public-private partnership.